8世紀　7世紀　6世紀

飛鳥時代　古墳時代終末期　古墳時代後期

- 6７２年　壬申の乱
- 7世紀中頃　竜王2号墳（山梨県甲斐市）
- 7世紀中頃　御崎古墳（山梨県笛吹市）
- 6４５年　乙巳の変（大化の改新）
- 7世紀中頃　東平第1号墳（静岡県富士市）
- 古墳時代後期～終末期　平林2号墳（山梨県笛吹市）
- 6世紀後半　中原第4号墳（静岡県富士市）
- 6世紀後半　綿貫観音山古墳（群馬県高崎市）
- 5世紀末～6世紀　大塚古墳（山梨県市川三郷町）

何者なのか？

甲斐の勇者（たけきひと）は、奈良時代に成立した歴史書「日本書紀」にわずか一言の記述で登場する謎の人物で、６７２年に勃発（ぼっぱつ）した天智（てんじ）天皇の皇位継承をめぐる古代日本最大の内乱である「壬申（じんしん）の乱」において、大海人皇子（おおあまのみこ）（後の天武（てんむ）天皇）方の騎兵として甲斐国から動員されたといわれています。その実像は定かではありませんが、6・7世紀の甲府盆地に築かれた古墳群には、武器や武具、馬具といった勇壮なる騎馬兵の姿を彷彿（ほうふつ）とさせる副葬品が納められており、そうした人物像が生まれた背景を考古学的な視点からも垣間見ることができます。

一方、甲府盆地では既に４世紀代から馬の存在が知られており、最新の研究成果では山梨県産の水晶の勾玉や石材などが東北から東海地方にかけて広く流通していたことが明らかになっています。さらに、これまで渡来系とされていた鉄製品や、倭王権からの配布とされていた石製品などが甲府盆地内で生産された可能性が指摘されるなど、「甲斐の勇者」という人物像が生まれた背景を探るにあたり、山梨の古墳時代を前期まで遡って見ていく必要性があることが分かってきました。

今回の展示では、山梨と各地の古墳出土品を比較しながら「甲斐の勇者」の原像を探るとともに、古墳時代を通じての被葬者像とその歴史的背景について考えていきます。

Ⅰ 甲斐の先進性

甲斐の４世紀は、墳丘長１００メートルを超える大型前方後円墳が相次いで築造されたことが知られています。中でも大丸山古墳から出土した鉄製品の特異性は、甲府盆地内部での鍛冶の可能性を示唆し、次いで築造された甲斐銚子塚古墳に副葬された水晶製勾玉は、東日本各地へ流通する山梨産水晶との関係を明らかにしています。また、日本最古級とされる馬の骨が複数体出土していることなど、近年の研究成果を紹介する中で、東日本でも一歩進んだ甲斐の前期古墳の被葬者像に迫ります。

Ⅱ 渡来文化と甲斐

５世紀には朝鮮半島から騎馬文化や様々な技術・文物が受容され、倭王権の下でこれらをもたらした渡来人または有力者の墓とみられる古墳が各地で発掘されています。甲斐では５世紀後半に築造されたかんかん塚（茶塚）古墳の石室に、国内でも初期段階の馬具や甲冑（かっちゅう）とともに乗馬習慣のある成年男子の可能性の高い人骨が遺っていたほか、いわゆる「蒙古鉢形（もうこばちがた）」冑（かぶと）などの渡来系要素が認められています。この前後ごろから、甲斐の古墳の被葬者は武具や馬具の副葬を伴い、武人化していく様子が見受けられます。本章では、各地の古墳との比較から、古墳時代中期～後期にかけての全国的な動きや甲斐の様子について紹介します。

第39回　特別展　『甲斐の勇者（たけきひと）―その原像を探る―』

■開催期間　令和４年９月２８日（水）～１１月２３日（水・祝）
■開館時間　９時～１７時（入館は１６時３０分まで）
■休 館 日　毎週月曜日（１０月１０日は開館）

画像 左から：勾玉　甲斐銚子塚古墳　東京国立博物館蔵 /【国宝】金銅製歩揺　綿貫観音山古墳　文化庁蔵（群馬県立歴史博物館保管）